



## 第 27 回例会報告 (2月23日)

## 【出席報告】

・会員数 53名  
 ・当日出席率 68.75%  
 ・出席数 34名  
 ・前々回修正出席率 100%  
 ・欠席数 19名

<欠席会員>原、平田、木村、桑森、村上(修)、村上(裕)、西本、大河内、坂本、重松、竹田、辰巳、田中、八木(正)、八木(伸)

[免除会員] 青野(明)、檜垣(巧)、光藤、白石

<2/9 欠席補填>(2/12 PETS)西本 (2/13 今治北)原、平尾、小堀、河野、桑森、松本、村上(修)、坂本、渡辺(易)  
 (2/18 IM)重松 (2/20 今治北)平田、竹田

## ロータリー創立記念例会

◆平尾浩一郎会長：1905年(明治38年)2月23日、弁護士のポール・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師ガスターバス・ロア、洋服生地商ハイラム・ショーレーの4人が一回目の会合を開いた。この日の会合では「一人一業種で親睦を深める会を作る」という設立の趣旨が語り合われ、クラブには実業人だけではなく法律家、医師、宗教家と、あらゆる業種の人を集めることとなった。3月9日に開かれた2回目の会合では、新たに3人が加わり、事業の経営者、共同経営者、または会社役員でなければ会員になれないことが決められ、さらに今後の会合の場所を会員の事業所を持ち回りにしてはどうかと議論された。3回目の会合が3月23日に行われ、新たに数名が参加した。シールの会社で会合を開いたこと記念して、ポールの指名により初代会長にシルベスター・シールが就任したことは、実質的な主宰者であるポールの謙虚な人柄が忍ばれると共に、依頼されたことはどんなことでも快く引き受けるというロータリーの伝統として現在に引き継がれている。またこの日の会合では新クラブの名称が検討され「ザ・シカゴフェローシップ」「ザ・ブルー・ボーイズ」等、1ダースを超える候補名が卓上を賑わせた。最後に誰かが言った「我々はお互いの事務所、一種のローテーションを取り決めて会合を開いている。ロータリークラブと呼んだらどうだろう」という発言でロータリークラブという会の名称が決まった。この3回の会合の何れの日をもってロータリークラブ設立とするかについては、最初に会合が開かれた日であるとか、規約が定められた日とか、法的に幾つかの解釈もあるが、RI理事会は1905年2月23日に開かれた会合を最初の会合と認めて、この日をロータリー設立の日と定めている。▼造形：「一人一業種制」と「定例会合」を原則にした職業人の親睦団体としてロータリークラブは発足した。加速度的に会員は増加した。時間励行が約束事だったが、一人の会員が昼食に時間が掛かり遅刻したことを契機に、どうせ皆昼食を食べるのだから一緒に食べる方が効率的だという事で、昼食会を兼ねることが習慣になった。例会出席をクラブ活動の根源と考え、四回連続で休むと会員資格を失うことを申し合わせ、二週間に一回だった例会も、週一回開催になった。▼奉仕理念の導入：特許弁護士のドナルド・カーターにクラブに入会を勧めるが、自分たちだけの利益にこだわり、社会的に何もしない団体に将来性も魅力もないと断られた。[物質的互惠]と[親睦]にのみ終始することに限界を感じ、次の段階へステップ・アップを考えていたポール・ハリスは、断られた事件をチャンスと捉えて、ロータリーの在り方を転換することを決断し、定款を改正することを条件にドナルド・カーターに再考を促し、彼も入会を了承した。これを契機に、シカゴ・クラブの定款に対社会的な行動に関する項目が付け加えられ、初めて原始ロータリーに奉仕という概念が芽生えることになった。▼シカゴ・クラブ定款：1.本クラブ会員の事業上の利益の増大。2.通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推。3.シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める。(1907年改正シカゴ・クラブ)1907年、こうしてロータリーの基礎が出来た。



<ゲスト>ケーオー商事(株) 常務取締役 越智大輔様

## 次回例会(3月2日)

## 【IM報告】

<配偶者誕生祝> 尾越 優氏 (3/7) 光藤 廣司氏 (3/8)  
 <結婚記念日祝> 近藤 正人氏 (3/4)  
 <入会記念日祝> 西信 正男氏 (3/2)

[ 国際ホテル ]